

世界最大級、最高傑作 を体感しよう。

古代蓮の里東側の水田には、緑色の稲の中に黄色や黒の稲が混ざっています。一体なぜ？その答えは、古代蓮会館の地上50メートルの展望室から見下ろすと分かります。そこには、市の天然記念物「行田蓮(古代蓮)」と美しい女性の姿が浮かび上がっています。そう、これは水田をキャンパスに見立て、色とりどりの稲で描かれた「田んぼアート」。市内外から応募があった一般参加者とボランティアの皆さんが力を合わせて作り上げた最高傑作が、今まさに見ごろを迎えています。

行田のおいしい米と
観光地・行田を
PRしたい

古代蓮会館の展望室に上ると、ほとんどの人が東を向いています。皆さんのお目当ては「田んぼアート」。圧倒的なスケールと稲の成長とともに変化する色彩で、同館を訪れる方を楽しませています。

「田んぼアート」が初めてお目見えしたのは平成20年度。「行田のおいしい米をPRしたい」「新たな観光名所を誕生させたい」そんな思いから「田んぼアート米づくり体験事業」がスタートしました。

この事業は、イベントを通して参加者間の交流を図り、農業や自然環境への理解を深めてもらうことを目的にしたもの。平成21年度からイベントとして、一般の方も田植えに参加できるようになりました。参加者には、実際に「苗を植える」「稲を刈る」という農業体験を通して、日本人の主食である「米」を身近に感じ、米づくりの楽しさや農業のおもしろさを実感してもらっています。

参加者にインタビュー

成長した教え子たちに会える絶好の機会となっています

平成23年度から生徒たちと一緒に「田んぼアート米作り体験事業」に参加しています。一緒に参加した生徒たちは、すごく夢中になり、泥まみれになって楽しそうに苗を植えていました。実際に稲を植えたり、刈ったりすることで、自分たちの主食である米がどのように作られるのか、その過程を肌で感じることができました。生徒たちにとっては、貴重な経験となったに違いありません。

この事業に参加して、今年で3年目。今回は、ボランティアとして参加しました。絵柄の重要な部分を任せられ、責任を感じました。2年前に参加した生徒たちも一緒でしたが、彼らは高校生ということもあって、自分たちで考えながら行動し、真剣な表情で苗を植えていました。2年前と比べて、成長した姿が見られ、とてもうれしく思いました。

私にとって、生徒と一緒に参加するこの事業が、成長した教え子たちに会える機会となっています。来年も、再来年もこの事業が続く限り参加していきたいです。



3年前から生徒と一緒に参加。生徒の成長ぶりを見るのが楽しみとのこと。



岡田 賢太郎さん
長野中学校教諭



初めての面積はたったの 2千平方メートル

平成20年度、初めて田んぼアートに取り組んだ田んぼアート米づくり体験事業推進協議会。このときに作成した田んぼアートの面積は約20アール（2千平方メートル）でした。その後、年々その規模を拡大させ、平成23年度には2・8ヘクタール（2万8千平方メートル）となり日本最大の面積を誇るまでに。

「田んぼアートの面積が日本一」ということは、世界一という可能性もあるのでは「田んぼアートを通して、行田市を全国に、そして世界にPRできるかもしれない」同協議会ではそんな考えが浮かび上がりました。そして、ギネス世界記録™にチャレンジすることになったのです。



平成20年度は、手探りの状態の中、田んぼアート米づくり体験事業推進協議会と関係者のみで田植えを行いました。

惜しくも認定ならず 来年も挑戦します!!

ギネス世界記録に挑戦して今年で3年目を迎えました。今年が初めての申請でしたが、今年の絵柄は「古代蓮の精」。市内在住の田代敬二さん原作の「行田蓮物語」を題材に、行田市蓮の大使であり市内在住の人形造形作家、木暮照子さんがデザインしたものです。7品種（5色）の稲を使って描かれ、アート全体の占める絵柄の割合が73・2パーセントと絵柄面積を昨年に比べて拡大。ギネス世界記録認定への期待が高まりました。

8月1日、運命の日。ギネス・ワールド・レコーズ・ジャパン公式認定員による審査が行われました。同館の展望室から、さらには地上に降りて稲の生育状況を観察しました。その結果、残念ながら今回のギネス記録認定は見送られました。理由は、絵柄の黄色部分に植えた稲が生育不足で、土が見えるなどして「一つの大きな絵としては不十分」と判断されたのです。

今回は残念な結果となりましたが、来年こそは絵柄や使用する稲の種類の検討を重ね、1000点満点の出来栄でギネス世界記録への認定を目指します。

今回、惜しくもギネス世界記録への認定とはならなかったことは、非常に残念なことです。しかし、田んぼアートを見た方には、この芸術作品の素晴らしさが伝わっているに違いありません。

季節は変わり、夏から秋へ。季節が移り変わるにつれて「古代蓮の精」も違った表情を見せます。緑色の稲が黄金色になりはじめ、淡いセピア色に姿を変えます。田んぼアートの見ごろは稲刈りが行われる10月20日まで。まだご覧になっていない方は、ぜひ芸術の秋にふさわしい田んぼアートを見にお出掛けください。

農業後継者の育成や「行田のおいしい米」「観光地・行田」のPRを目的に始まった「田んぼアート米づくり体験事業」。今ではイベントへの参加者、そして田んぼアートを介して来る観光客が年々増え、「元氣な行田」の象徴となっ
ています。日常では体験できない貴重な経験ができる「田んぼアート米づくり体験事業」に一歩足を踏み入れてみてはいかがですか。

▼問い合わせ 田んぼアート米づくり体験事務局（農政課内・内線386）

※古代蓮展望室へは、古代蓮会館入館料【大人】400円【小人】200円が必要です。